

獅子頭

当地方に保存されている獅子頭としては、もっとも古いものであるろう。頭頂が低く、全体が偏平で、製作様式の古さを示している。厚い上唇と大きい鼻、頭髪や太い眉の端がわらび状に巻かれていることはその特色であろう。

所在地

慶徳町新宮 熊野神社



磬けい

磬は、中国の楽器からとった仏具の一つで、勤行の際に導師がこれを鳴らして合図に用いたものである。両面中央に蓮華文の撞座つきざがあり、その両側に孔雀文を配している。

所在地

慶徳町新宮熊野神社



懸かけ

御正体みしょうたいともよばれ、はじめは鏡の表面に神像、仏像、梵字などを線刻し、社寺に奉納して礼拝したものである。

鏡は、本来神体としてまつられる場合が多かったが、神仏習合、本地垂迹ほんちすいじやくなどによって、本地仏の姿や種子を刻出するようになった。中世にはさらに半肉の鑄像を銅板等にとりつけた懸仏の形式が生まれ、鎌倉・室町時代にかけて盛んにおこなわれた。

ここにみる懸仏は、鉄製の円板の上に三体の仏像を刻んだものである。銘がないため製作の年は知ることはできないが、鎌倉時代から室町時代にかけての作と考えられる。

所在地 慶徳町新宮熊野

熊野神社



仏ほとけ